

MAIL MAGAZINE

メールマガジン

中国のクローン犬！

JSC 貿易部ニュース

残暑厳しく暑いが続いております。

さて、中国ではいま空前のペットブーム。特に新型コロナが流行した2020年以降、犬や猫を飼う人が急増し、去年のデータで7000万人を超えたそうです。そして、ペット産業も年々拡大、その市場規模は8兆円以上だとか。

そんなアツイ中国のペット市場ですが、先月8月16日に上海新国際博覧センターで「第25回ペットアジアフェア」が開幕されておりました。過去最大23万平方メートル、東京ドーム5個分に及ぶ展示スペースが用意され、ペットの衣食住、娯楽、医療関連の企業2000社以上、24000あまりのブランドが出展されていたそうです。



犬関連の各種コンテストもこのフェアの見どころの一つで、犬の美容や、犬の訓練士コンテストなど 10 以上のイベントが行われていました。

しかし、そんな中、日本ではあまり見かけない出品も…
なんと、「私はクローン犬です」と書かれた首輪をする犬が出品されています。



中国の専門家話によりますと、いま現在、クローン動物の売買については中国の法律にも明確な規定がないらしく、そのためペットのクローンの販売は違法ではないのだとか。当然ながら倫理・道徳面で懸念する声は存在しているようですが、ビジネスが先行してしまうところは中国ならではのようです。



写真は、愛犬を亡くした飼い主が 25 万元 (約 500 万円) を払ってクローン犬を生み出してもらったことを紹介する記事の切り抜きです。

犬種によっては 290 万円ほどでも可能な犬もあるのだとか…

中国のアンケート調査では「死んだペットのクローンが欲しいか？」と 10 万人に聞いたところ、約 26% もの方が欲しいと回答したようです。

ちなみに日本で同様のアンケートすると、「犬のクローンが欲しい」と答えた方はわずか 0.6% だったそうです。 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000202.000068228.html>

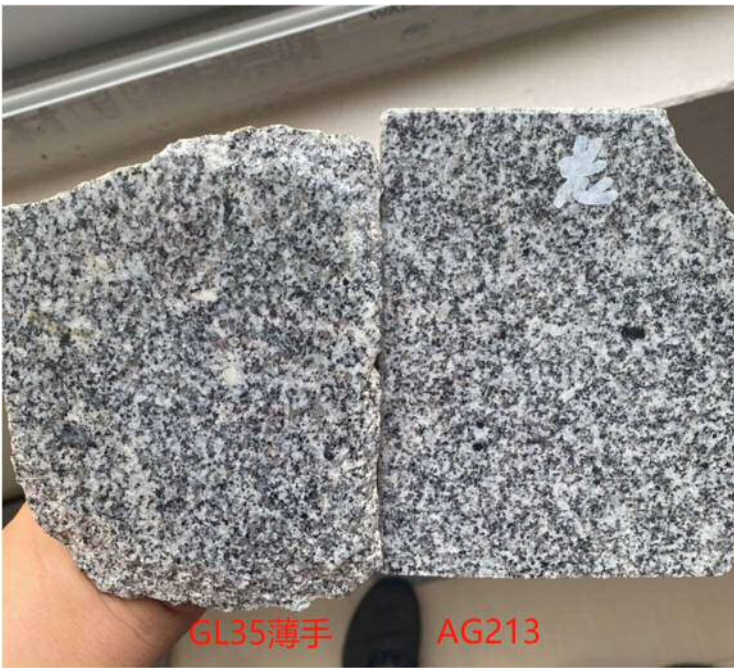
もちろん中国でも人間のクローンは禁止されていますが、ペットのクローンはすでに 2019 年から実用化が始まっているらしく、これまで少なくとも 500 匹以上のクローン犬が誕生しているそうです。日本とは異なる驚きの中国ペット事情のご紹介でした。

さて、今月の石のお話です

この度、日本の大島石に似ている石のひとつ、「GL35」の薄手が約 40 m³限定で、弊社の協力工場に入荷致しましたのでご紹介いたします。

同じく中国大島的一种として人気の高かった石に「AG213」がありますが、こちら現在丁場が停止し、各工場の原石在庫も無くなりつつあります。

また、「AG213」は下地が白っぽい感じでしたが、この「GL35」は青味があって、より日本の大島石に近い感じがします。



長さは、8尺程度の製品までなら生産可能、天板なら 4尺角程度までは取れますので、日本全国どの地域の石材店様でもお使いいただけます。

錆も無く、青味の綺麗な素材です。

大島石に似た中国材をお考えの際は、是非、「GL35」をご検討くださいませ。

それでは、今月も最後までお読みいただきありがとうございました。

夏の疲れが出やすい時節、どうかご自愛くださいませ。

2023/09/01